

# 喪失の恵み

～ご長寿祝福礼拝～

2026・9・13

# 避けられない「喪失」

- 人生は「喪失」の連続
  - 家族、友人、ペット、健康・仕事・財産・若さ…
- 「喪失」の前には必ず「獲得」がある
  - 生まれた時には何も持っていない
  - 神様から様々なものをいただく(託される)
- 「喪失」は「マイナス」ではなく「0」になること
  - 多くの財産と家族を持っていたヨブが一瞬にしてすべてを失った
  - 「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」ヨブ記1:21

# 「悲嘆」のプロセス

- 「喪失」と「喪失感」は別物
  - ・ 喪失に伴う心の変化を「悲嘆のプロセス」と呼ぶ
- 一般的な悲嘆のプロセス
  - ・ 衝撃・否認: 「そんなはずがない！」
  - ・ 怒り: 「なんでこんなことが起こったのか？」
  - ・ 取引: 「元通りにしてくださるなら何でもやります」
  - ・ 深い悲しみ: 虚しさ・無気力・悲しみ・涙…
  - ・ 受容: 「この事実を受け止めて生きて行こう」

行きつ戻りつしながら徐々に  
落ち着く

# ヨハネ福音書11:32～36

マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、**心に憤りを覚え、興奮して**、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。**イエスは涙を流された**。ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。

# 憤られたイエス

- ラザロが死んで4日目にベタニアに来られたイエス
  - 重病だと知らされていたがわざと向かわなかった
- 泣きながら恨み言を言うマリア
  - なんで直ぐに来て下さらなかったのか！
  - 彼女もいっしょにいた人々も号泣していた
- この様子を見て怒られたイエス
  - 「心に憤りを覚え、興奮して」>なぜ？
  - ラザロの死を前に、意気消沈しすべての希望を失い、神への信仰を失っている姿に怒られた

# 憤られたイエス

- ラザロが死んで4日目にベタニアに来られたイエス

- 重病だと知らされていたがわざと向かわなかった

- 泣きながら恨み言を言うマリア

- なんで直ぐに来て下さら

- 彼女もいっしょにいた人

- この様子を見て怒られた

- 「心に憤りを覚え、興奮してなぜ？」

- ラザロの死を前に、意気消沈しすべての希望を失い、神への信仰を失っている姿に怒られた

これまでイエスが教えてきたことが何も生かされていない！

# 涙を流されたイエス

- ラザロの墓に向かわれたイエス
  - 「どこに葬ったのか」(少しキレ気味?)
  - 「主よ、来て、御覧ください」(現実を見て下さい)
- 「イエスは涙を流された」
  - 新約聖書の中で最も短い節
  - 英語では”Jesus wept.”
  - 原文では“エダクルーセン ホ イエスース”
  - 「涙を流す」を意味する「ダクルオー」: マリアたちが泣いていたのは「クライオー」(泣き叫ぶ)
  - イエスは声を上げず **静かに涙を流された**

# 涙を流されたイエス

- ラザロの墓に向かわれたイエス

- 「どこに葬ったのか」(少しキレ気味?)

- 「主よ、来て、御覧ください」(現実を見て下さい)

- 「イエスは涙を流された」

- 新約聖書の中で最も短い節

- 英語では”Jesus wept.”

- 原文では“エダクルーセン”

- 「涙を流す」を意味する「ダクルオー」は、マリアたちが泣いていたのは「クライオー」(泣き叫ぶ)

- イエスは声を上げず **静かに涙を流された**

友の死に心を痛め、  
思わず涙がこぼれた

# 悲しむ人に寄り添うには

- 悲しみを乗り越えることができるのは本人
  - 悲しみを減らそうとか取り除こうとしない
  - 山に登れるのは本人だけ
- さりげなく寄り添う
  - 「話したくなったら、いつでも聴くからね」
  - 具体的な支援をする
- やってはいけないこと
  - 自分の経験を持ち出す
  - 分かったようなことを言う:「時間が解決するよ」「いつまでも悲しんでいたら死んだ人が悲しむよ」

# 「喪失」の準備

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

- 神はまず「独り子」を獲得された
  - 神は本来唯一であるが、「父—子」の関係を創り出された
- 神は「独り子」を愛しておられた
  - 「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」ルカ3:22
  - 「父がわたしを愛されたように」ヨハネ15:9

# 喪失の恵み

- 独り子を見殺しにされた父
  - 私たちの罪の身代わりとして裁くために、独り子を十字架で見殺しにした
- 父に完全に見捨てられた子
  - 「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫んだ: **子も父を喪失した**
- **父は子を、子は父を喪失したから私たちは救われ、永遠の命を与えられた**
  - 私たちが受けた救いの恵みは、神が味わわれた「**喪失の恵み**」である

# 決して喪失しないもの

わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの**主キリスト・イエス**によって示された**神の愛**から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

ローマ8:38-39